

令和3年9月9日

南砺市長 田 中 幹 夫 様

地域づくり協議会井波連合会

会長 碓 井 好 彦

井波地域づくり協議会

会長 三 谷 直 樹

南山見地域づくり協議会

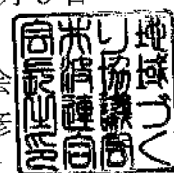
会長 碓 井 好 彦

山野地域づくり協議会

会長 大 浦 英 征

高瀬地域づくり協議会

会長 橋 場 武 志



紹介議員 南砺市市議会議員

才 川 昌 一

蓮 沼 晃 一

川 原 忠 史

協同組合井波コミュニティプラザ「アスモ」存続要望について

日頃より井波地域の発展にご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

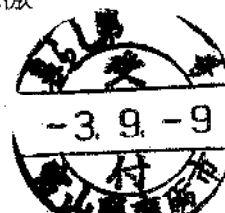
さて、庁舎統合問題を機に地域の振興・活性化・地域づくりについて南砺市では「まちづくり検討会議」を立ち上げ、固有の地域資源を活用し未来像を語り合い市長に提言する機会をいただいたことは、大変有意義でありました。

井波地域では①日本遺産・井波の魅力発信②コンパクトで生活しやすいまちづくり③庁舎を中心とした複合交流エリアの整備を3つの柱として構想を練り上げ、市長提言をしましたことはご案内の通りです。

少子高齢化が進展する中で、交通弱者である年少者や高齢者が地域内や市内を自由に移動し、日常生活（買い物、通学、学び、通院、福祉等）を無理なく送ることができる社会の構築は急務であると考えます。そこで、「コンパクトで生活しやすいまちづくり」では、日常生活を支える足の確保を「アスモ」を起終点にし、井波地域4地区を8の字に運行する公共交通の構築について提言をしました。

そして、「井波地域持続可能な移動の仕組みづくり協議会（井波モビリティ協議会）」を立ち上げ3次交通として地域で運行できないか検討を続けているところです。また、アスモ前の都市計画道路には「なんバス」の停留所がありますが、利用者の利便性を図る上でアスモ構内に乗り入れできないかアスモと協議中でありす。

交通の起終点をアスモにしたのは、町部の最寄り機能を有する小売店が急激



に減少する中で、アスモがその機能を代替する役割を果たしており、町部以外の3地区からの利用も多く、希望者には宅配も実施していることや、南砺で暮らしません課、なんと未来支援センター、井波地域づくり協議会、通所型サービスB、NPO法人なんと元氣が入居し、井波地域の行政・福祉・地域づくりの拠点として定着していることが挙げられます。

また、災害時の避難場所として南砺市はアスモと協定を結ばれており、市の要請に応じて2次避難所として利用できるように位置付けされています。しかし、1次避難を考えたときには、土砂災害警戒区域エリアが市街地の4分の1ほどを占めていることから、町内会公民館等への避難が不可能となります。同様に火災が発生した際にも、密集市街地において過去の事例から避難場所の確保が困難な事態が想定されます。従いまして、市が進める災害時の1次避難所を自町内会に開設できない町内はアスモを利用できないか、井波地域づくり協議会ではアスモと協議中であります。

以上、商業施設としてだけでなく公共施設としても、アスモは「コンパクトで生活しやすいまちづくり」を進める上で、重要な地域資源として位置付けております。

南砺市におかれましては、井波地域の実情に鑑み、アスモが存続できるよう支援を賜りますようお願い申し上げます。

R03-031-001
事業者支援係